

令和8年度越生町教育行政重点施策

越生町教育委員会は、令和6年度「第4次越生町教育振興基本計画」を策定し、5年間の教育施策の体系を明らかにした。越生町教育行政重点施策は、本基本計画を実現するため、各年度における重点的な取組を定めたものであり、以下が令和8年度に取り組む重点的な事業である。

目 標

- 1 学校・家庭・地域が連携・協働した取組を一層推進させ、「知・徳・体」のバランスのとれた9年間の一貫性のある教育を行い、「生きる力」を育成する。
- 2 学校や地域、各種団体と連携を図りながら社会教育活動の普及を図り、町民が生きがいをもって主体的に生涯学習に取り組める環境づくりを推進する。

基本方針

1 学校・家庭・地域の教育力の向上

(1) 確かな学力と自立する力の育成

個に応じたきめ細やかな指導

- 学習支援員等の町費会計年度任用職員を各校へ複数配置したり、町独自の少人数学級編制をしたりすることで、個に応じたきめ細やかな指導を展開する。
- 授業時間数を適切に確保しながら、児童生徒が主体的に授業に参加し、児童生徒同士が相互に意見を述べることで課題を多面的に捉え、より質の高い思考力・判断力・表現力を身に付ける「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進する。
- 外国語活動や外国語（英語）の学習において、ALTを教育活動全般で活用し、海外とのオンライン交流や英語検定の受検などを通して、グローバル化の進展に対応する人材を育成する。
- 各教科の特質や指導場面に応じてICTを効果的に活用し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図り、資質・能力の向上に取り組む。また、ICTを活用したオンライン授業等、個に応じたきめ細やかな支援を行い、学習内容の定着と学習意欲の向上を図る。

小中一貫教育の推進

- 義務教育9年間にわたる児童生徒の学びと育ちの連続性を重視した教育を展開することで、学習意欲の向上や小学校から中学校への円滑な接続を推進する。
- 越生小学校と梅園小学校のお互いの良さを生かした、合同行事や合同授業等の小小連携の取組を充実させ、義務教育9年間の一貫した教育を推進する。

多様な人々と協働した教育活動の充実

- 様々な分野の知識・能力を持った越生町ならではの地域人材や企業等、地域社会との連携・協働した学びを推進する。
- ふるさと越生について考える授業や山林等の豊富な地域資源を活用した体験活動を行う「ふるさと教育」を推進し、郷土を愛する心や創造力を醸成する。
- オンライン等を活用した多様な関りを通して、コミュニケーション能力や問題発見・解決能力、情報活用能力等、将来の予測が困難な時代を生きぬくための基礎となる資質・能力を育成する指導の充実を図る。
- 学校運営協議会を軸に、地域と学校が連携・協働した教育活動を推進する。

家庭生活・家庭学習の充実

- 「越生町の教育」や「家庭生活・家庭学習のすすめ」等のリーフレットや夏休み前の学習成績表等を効果的に活用し、規則正しい生活の定着や家庭学習の習慣化を図る。
- AIドリル等を活用して、児童生徒一人ひとりの学習能力に応じた課題を設定し、家庭学習の習慣化を図り基礎学力の定着を図る。

(2) 豊かな情操と健やかな心身の育成

道徳教育、人権教育の充実

- 「特別の教科 道徳」を中心に、全ての教育活動を通じて道徳的实践を促し、発達段階に応じた道徳教育を推進する。また、児童生徒の夢や豊かな心を育むために、家庭・地域・学校が連携した道徳教育を推進する。
- 「いじめ防止対策推進法」や「いじめ防止基本方針」を踏まえ、いじめの未然防止及び解消に向けた積極的な認知と早期対応に向けた組織体制を強化し、いじめを許さない意識の醸成と人権を尊重した教育を推進する。また、いじめ防止の取組やいじめ発生時の適切な対応等についての研修の充実を図る。

- ネットを媒体としたいじめやトラブル等から児童生徒を守るために、発達の段階に応じた情報モラル教育を通して、学校・家庭・関係機関が連携を図りながら、児童生徒が主体的に適切なインターネットの利用ができる力を育む教育を推進する。また、児童生徒自身によるインターネットの利用に関するルールづくり活動等を推進する。
- 義務教育9年間を見通した継続的な生徒指導を実践し、不登校やいじめ等の問題行動を未然に防止する。
- 児童生徒の心理又は福祉に関する専門的な知識を有する、スクールカウンセラー、さわやか相談員、スクールソーシャルワーカー及び外部の専門性の高い人材等を活用するとともに、適応指導教室等の機能強化を推進し、教育相談体制の充実を図る。
- 豊かな人権感覚を育むため、参加体験型学習を取り入れた「人権感覚育成プログラム」等を活用し、全教育活動を通して、他者を思いやる心や人権感覚を育成する。
- 児童生徒が読書に親しむ機会の提供と環境の整備を行い、読書に親しむ機会を充実させ表現力や想像力を育む。
- ふるさと越生について考える授業や山林等の豊富な地域資源を活用した体験活動を行う「ふるさと教育」を推進し、郷土を愛する心や創造力を醸成する。(再掲)

学校体育活動の充実

- 児童生徒一人ひとりが、自分の健康や体力に関心を持ち、運動を楽しめる体育の授業や体育的活動を実践することにより、主体的に運動に取り組む児童生徒を育成する。
- 学校の教育活動全体を通じた体系的な学校体育活動の充実を図り、児童生徒が運動・スポーツの楽しさを実感できる体育の授業や体育的活動を推進し、生涯にわたる豊かなスポーツライフを実現するための資質を育成する。
- 生涯にわたって健康な生活を送る基礎を築くため、学校と家庭が連携し、運動・食事・睡眠などの規則正しい生活習慣や歯・口の健康づくり等、健康の保持増進を目指した取り組みを推進する。

食育の充実

- 自校給食の特性を生かし、地産地消を進め、学校給食を「生きた教材」とし、「食」に対する理解や、地域への関心を高める。
- 食や栄養に関する指導を担う栄養教諭を中心に、子供たちに望ましい食習慣が身に付くように、するとともに、自ら「食」を選択する力を育むため、学校給食を核に家庭・地域との連携を密に図り、食育を推進する。

(3) 学習環境の整備・充実

安全・安心な環境整備

- 安全・安心で快適な学校を目指し、施設・設備の計画的な改修を図る。
- 児童生徒の安全・安心を確保するため、学校安全を学校経営方針に明確に位置付け、学校安全計画に基づく組織的・計画的な活動を推進する。
- 児童生徒が、安全に対する意識を高め、危険を予測し、回避する能力を身に付け、主体的に行動できるよう、避難訓練等の安全教育を計画的に実施する。また、危機管理マニュアルの定期的な見直しを実施し、それらを的確に実施できるよう研修の充実を図る。
- 通学路の危険箇所を点検し、関係各課と連携を図りながら安全を確保する。また、自転車運転に関する講習会などを実施し、自転車に乗る際には、小・中学生ともにヘルメットを着用すること等、ルールやマナーを守り、安全に生活できる児童生徒を育成する。
- 「地域学校安全指導員（スクールガードリーダー）」、「町内の防犯組織」、「見守り隊（ボランティア）」、「子ども110番の家」などと連携・協力し、地域ぐるみの学校安全体制を整備し、児童生徒の安全を確保する。また、「一斉メール配信」を活用し、防犯情報等を適時適切に配信し、保護者等に周知する。

教育機器の整備・充実

- 各種データを活用した効果的な教育の実践を図り、児童生徒の情報活用能力を育成するため、ICT環境を計画的に整備する。

教職員の指導力向上

- 優れた教育実践を行っている教職員の知識や技能を3校で共有するなど、教師一人ひとりが、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を進めるための研修の充実を図る。
- 管理職をはじめ教職員に対して、特別支援教育に関する研修や、特別な教育的支援を必要とする児童生徒や幼児への支援方法に関する研修を実施し、指導体制の充実を図る。
- 全教職員を対象に3校合同研修会を実施し、今日的な課題に即した研修を実施する。
- 町内学力向上推進委員会等の各種委員会を充実させ、3校が「知・徳・体」の9年間を見通した小中一貫教育を推進するために連携を図る。

- 本町の課題等を近隣市町村と情報共有し、課題解決のための積極的な人事交流を図る。

学校図書館の整備・充実

- 蔵書管理システムを活用し、蔵書の更新や廃棄を適切に実施し、本の新陳代謝を進め、学校図書館の充実を図る。
- 町立図書館との連携を密に図り、児童生徒が読書に親しむ機会の整備を進める。

地域教材の活用

- 「越生こども未来大学」及び「サマースクール」を実施し、地域の教育力を生かした越生町ならではの学びの場をさらに充実させる。
- 様々な分野の知識・能力を持った越生町ならではの地域人材や企業等、地域社会との連携・協働した学びを推進する。(再掲)

(4) 家庭・地域の教育力の向上

越生町「3つの㊟」の推進

- 「3つの㊟」のポスターや「越生町の教育」のリーフレットを活用し「3つの㊟」を広く周知し、大人が手本を示すまちづくりを推進しながら、子供の発達の段階に応じた指導を行っていく。
- 新入園児にリーフレットを配付し、「3つの㊟」の啓発を行い、幼・保・小・中が「3つの㊟」の視点での共通理解を図ることで、幼・保・小・中が連携した教育を推進する。

学校応援団活動の推進

- 地域全体で未来を担う子供たちの成長を支えていく社会を実現するため、学校運営協議会と学校応援団活動が協働しながら、子供たちの学びや成長を支える活動を推進する。
- 学校・家庭・地域全体が目標を共有し、幅広い地域人材の参画の下、子供たちの学びや成長を支える学校応援団活動を活性化させる。
- 地域とともにある学校づくりを推進し、学校・家庭・地域が一体となった教育の実現に向けて、学校運営協議会の充実を図る。

家庭教育支援体制の充実

- 町や県が作成した各種リーフレットを活用し、学校と家庭が協力して児童生徒の基本的な生活習慣や家庭学習習慣を身に付けさせる。

- 家庭教育アドバイザーの活用、民生・児童委員との連携、保護者会の工夫等により、家庭教育の充実を推進する。
- スクールソーシャルワーカーの専門性を生かし、家庭との相談体制や関係機関とのネットワークの構築等、多様な家庭支援体制の充実を図る。

2 生涯学習の推進

(1) 一芸・一スポーツ・一ボランティアの推進

文化、芸術活動の普及促進とこれを活用したコミュニティの推進

- 公民館等サークル団体の活動を支援するとともに、幅広い年代層の活動促進を図る。
- 文化協会をはじめとした教養文化芸術団体やサークル活動の育成と継続的な活動を支援するとともに文化祭を開催し発表の機会を提供する。
- 「こどもフェスティバル」や「こどもおはやし大会」など、こどもを対象とするイベントを通して、こどもたちの健全な育成と「こどもまんなか社会」の実現に向けた取り組みを支援する。
- ひまわりこども室の活動を通じて「こどもの居場所づくり」を進めるなど、子育て支援策との連携を図る。
- 高齢者をはじめとした町民一人ひとりの生きがいを支援するため、生涯学習講座の普及、促進を図る。
- ボランティア活動を普及させるため、社会福祉協議会と連携し、その意義を知ってもらう機会をつくとともに、すでに実施しているボランティア活動の支援、拡充を図っていく。

スポーツ・レクリエーション活動等を通じた健康づくりの推進

- 手軽にできるスポーツやレクリエーション活動を通じた健康づくりを推進する。
- 町全体で取り組めるスポーツフェスティバルを開催し、スポーツを身近に感じながら、町民の健康づくりを推進する。
- スポーツ推進委員や各地区のスポーツ推進員と連携して、町全体に普及させられるニュースポーツの導入を検討する。
- いつでも、どこでも、誰もが、気軽に実践できる「ラジオ体操」の普及を図り、健康づくりの取り組みを推進する。

アスリートの育成を視野に入れた各種団体、競技活動への活動支援

- スポーツやサークル活動を通じてのボランティア活動を推進する。
- スポーツ協会を中心に、各種スポーツイベントを開催する。
- 優れた功績や成績を残したアスリートを、スポーツフェスティバルの際に表彰し、アスリート育成に関する意識の醸成を図る。

(2) 越生が誇る歴史文化の継承と活用

伝統文化の魅力発信と学びの充実

- 文化財の現状を把握し、実情に沿った効果的な保存策を講じる。
- 国や県の補助事業等を活用して、文化財の保存と活用を図る。
- 町内の小学生に町の自然・歴史・文化を知ってもらう機会をつくる。
- 多くの観光客が訪れる越生まつりや、文化祭の場を活用して、越生町の歴史伝統文化の紹介、取り組みなどを披露する場を設ける。

「ハイキングのまち」と連携した歴史伝統文化財の活用

- ホームページやSNSを利用し、「ハイキングのまちづくり」と連携した文化財の活用を図る。
- 文化財解説版や越生再発見100ポイント標柱、「越生探訪地図」などを利用して、町の自然・歴史・文化を町内外に向けて発信する。

郷土の偉人や町にゆかりある人物を活用した取り組みの推進

- 郷土にゆかりある人物の周知・理解を通して、郷土意識の高揚を図る。
- 太田道灌、渋沢平九郎といった町にゆかりのある人物を積極的にPRする。

(3) 生涯学習施設の環境整備

公民館、スポーツ施設の環境整備と活用

- 施設の老朽化に対応した予防保全と、計画的な維持管理に努める。
- 毎週、定期的な施設点検を行うなど、体育施設の適切な維持管理を実施する。
- 各体育施設の定期的な点検を行い、町民が気持ちよく使用できる環境を整える。

町立図書館の蔵書の利用促進と読書普及の取り組みの推進

- 町立図書館の蔵書を有効活用し、小中学校図書室との連携を図る。
- 図書館こどもまつりや各種イベントを通じて、こどもからお年寄りまで幅広い年代層が図書館と関わる機会を設ける。

- 図書館を訪れるきっかけづくりとして、ひまわり子ども室とのイベント等の連携を図る。

梅園コミュニティ館の活用と梅園地域の活性化

- 梅園コミュニティ館内に開設した「越生町立図書館梅園分室」への配本の充実を図る。
- 図書館梅園分室と、「梅園学童保育室」や「ふれあいルーム」との連携を図る。
- 梅園コミュニティ館の利用者が目を引くような魅力的な取り組みを展開する。
- 梅園コミュニティ館「納涼ふれあいまつり」を通して、多くの町民に存在を知ってもらうことで梅園地域の拠点としての機能を充実させる。
- 当該施設を気軽に訪れることができる環境づくりを進める。
- 隣接する梅園小学校と連携した取り組みや事業を展開する。